



官  
剝  
孝  
義  
錄

卷十四

陸  
奧  
三

9  
1596  
14



1596  
14



孝義源卷之十四

陸奥國三

孝行者勤右郎

勤右郎ハ侯達那大細木村乃百姓なる先祖ハ同一村  
よてかいついとうとふら百六十名ありの田地を開發  
せし者よと祖父の源七事ふいける海とハ家あり  
ありハ父の源七と名やうくよとと語へ出てとハ  
且つよと名ありの田地とそ持する事と事と  
勤右郎ハとくくり同ノ郡町小細木村の組頭  
九年次の家よと名せしよ天徳七年父をうしむい

妻にせよれし後祖母のまじり今年百歳よりとある  
一母のくわい七十九歳なりしは子の次弟いさ成  
中みよくはたしむるもいと老成なりけり徳林村  
あつちの里にたつたの次弟ありしはあつちの里に  
家とともいふなりつゝ母乃昔よりつらつて飲食はま  
うぢやあつちの田島のいさおとともあつちの島く  
おつちの實母いさおのまじり給金のつらつらととも  
いさおのあつちの島く祖母と母子との飯茶と  
らつちの島くいさおの事とつらつちの島く人もま  
ありて後薦とあつちの履茶鞋を作りまて代

いさおの島くいさおのあつちの島く後結核とともいさ  
おの島くいさおの料のそつちの島く勤者那とあつちの  
徳守此条の目らつちの島くも業もつちの島くあつちの  
後約あるに祖母れをわれつちの島くいさおとともい  
まはつちの島く目らつちの島くいさおの島く酒買んがと  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く  
あつちの島くいさおの島くいさおの島くいさおの島く

ありしにむすも祖母と母のやえろとす  
 けい養ふらむまゝにむすもをくむらうにむ  
 すとけいむも脱て病者の食にけくはそ乃  
 身ハ肌着のうへよ養うらうけしうらる事も  
 むくありさうの町小堀末村の市町ありけり  
 目らくおれ一奉りある者のけり戯る事乃あ  
 る小堀を郡にむすも又家よりのむすも作業とい  
 とふとむすも祖母と母らよらうの事とむすも  
 養えろをとりけりあくるあきたらうらと奉  
 らうのむすもいけりけりあて我子とらむらめ

ついてる道はうらむとけりもて侍衆の業の者  
 とむすも人の家よりの目外の勤よむすもとむすも  
 奉りむすもむすもありけりけりけりけりけり  
 奉りむすもむすも病出んもむすもけりけり  
 ありむすもむすもけりけりけりけりけり  
 のありむすもむすもけりけりけりけりけり  
 くれと法度とまんにむすもけりけり親疎の交  
 りむすもむすもけりけりけりけりけりけり  
 りむすもむすもけりけりけりけりけりけり  
 ありむすもむすもけりけりけりけりけりけり

二年代官水谷祖在焉その初状を尋ねるとこれ  
の同一と云ふ年の十二月津獲と云ふところへ親をこりく  
せりされり

孝行者長董

大沼郡黒沢村の長董と云ふ盲人あり其父  
ありて親をこりくせりたれ居るありて  
長董は小歌と味縁乃藝とせも多々これ村里に  
ても擧向るをこりくせりありて  
ひをうけて世に後りたりその雇はしる家にて  
ありて親の食を必すと持ゆりて親よと云ふ

考ふもこの腰よと云ふことありて  
のまにせりてその親の飲くらば酒食は  
もあつてその親の飲くらば酒食は  
さらせんといひてその親の飲くらば酒食は  
あつてその親の飲くらば酒食は  
のやと云ふに疲るれと云ふに  
新張りて元来と云ふに  
く濁酒をこりくせり先思ふと云ふに  
背おの初世のさうれ事なりと云ふに  
を對する長董の往來の道よと云ふに





その男いへてよく親子の贈りし事もよくぞこ  
らぬふもせむのいへて白人もその志を憐みて  
親の料を別よけせんるといひしはたかく群  
てうけたりたゆみあまのまれりまゆりも感  
くその孝ふと遂に免る親乃母ありしうら  
ふ男をある事と好てこころいふありし事  
今くそれ謀のいへるるん先いまる母そのこと  
を神よいのれとるるに死しそ後の延福をも  
佛よらひしてよく父母のいふとるる事  
めやうあるよきこととすことと地をあり

りおとむる松平肥後守の御へ公の事とあこ  
し褒美せりこれ室永之奉の中なること

孝行者城定

貞長者同妻

孝行者九次を清

城定は塩屋郡和泉田村乃郷政彦存忠の子なりお  
こふ名を留主とといひしは十二歳の時目しめて  
あとの十六歳のうして父羅よあつてころされぬ留主  
男を幸ひしころもあつりけしは六浪郡小碓川村  
にありしはころもあつりけしは六浪郡小碓川村

りこの朝夕乃煙も暮るくもくそをきつるのくち  
 とも父乃罪よとらふもきつる所よとらふのゆゑ  
 乃やとのれをを指しりて墓をつと表の事とつと  
 めく愁へあつとけし見守ぬるもの皆感へあ  
 りとらふふる主を十一歳ありて父のさへくとも  
 一那境村の百姓長作の娘八歳ありてと親くの  
 りいつりて婚姻の事と定り主ぬ漸年月と  
 うつりば娘十三歳の時長作の志くとも族のいひか  
 へぬ主をい目くあく新清志とてあつて父の罪  
 よ死せり何れものあらしせりともくともく

りこの縁さあありたるを娘乃守傳くとも見り  
 縁さありてと父長右衛門の白紙とくとも  
 事ゆつともりつと父の家あつて肝黄あて致り  
 事高むくともつと族と小住いああり今更不  
 幸ありて目くともり胃やくありあふも孫所  
 人よゆんとといもふらとくけえは長作も  
 やじ事とゆされふ主とる任所まうて尋ねも  
 とめ小姓川の悪居らうとや守傳へ媒人して嫁  
 の初を同くあつと父のくせつ約束とてとら  
 志よ語らぬふあありとあつとれも今かく男を

くあしにふくむる業をわしあまもことあし何地  
 にも改免嫁まへしとく母と志めしあせしや苗  
 玉さへは染志まじらふけ娘よ昔けまに又あふ  
 尋ねるもやまらんあふちよ地へ嫁せし免わら  
 洲津もも身を沈むしあふしひるるよ長作はせ  
 んとへうく苗玉太の母あしとつひやう多し有  
 甲斐もたつこ月をわくもそ暮ふとくく苗玉太  
 けつひこくえんよやそ娘と呼らうしふけ女姑  
 につらつらあおんやいよ目く影をふよらあ或はの  
 芽と津みあとしつらつらあふよへ来り姑

乃夜食といとるるを道にぬまきもその貞をひらる  
 みあてり小野川村へ立あへり名をも城定と改めけ  
 且ゆけて妻婦れ際とふふしと母あつへあ孝養を  
 そくそまじと母もや驚くそまじと種るく類  
 に出てむらうくありぬらうのそまじと妻婦れ歎こ  
 つらうらまはさるひる墓ふ後ち泣かふしむる  
 海見らうく人感せわものあふらうら其後年月を  
 経て針治按摩をけけりきくつらひ江戸よ出れ  
 と申風の病をそ告げもら乃あつらう種ふしあし  
 友郷ふらあぬ城定は人乃男ふあり見と借をそ

つひ次を左次を清次を勘次市来と金に所とを  
つひなる何事とも世の縁と云ふを父母よしく  
つひの申の中にも左次を清次を孝行乃志清く農事  
の勤い更にもいふは耕作のいふある時日く此を  
とふよいて情士情といふ難事の有りともよま  
こととありて、市町へ往来しけしことこのれは物をも  
くそといはつてふよい必もきふことりともありて父  
母の心を慰め今りの實に永く奉ふの所をあらわす  
さむら松平肥後書に始りてと云ふへ出りての事と  
もくところせりて人のもれを懐美せり

忠義者久七

久七、倉津郡水根村乃百姓市右衛門、この信代の下に  
生れ、はつと篤實なりて、細い主人を守りて、父に  
おぼしきことなり、そのめ、市右衛門、七歳ありて、父に  
とられ、母は他へ嫁し、この嫁、祖父の十市右衛門、おぼし  
として、十市右衛門も又老衰いや、ゆきて、四五年、  
程病あふ、是より十三歳、さうよひ、さうあり  
ぬ、その病中、をくら居る、おぼし、さうあり、と久七  
は、終日、おぼし抱え、つらきと夜、さう病者、れ、寝る、と  
さう、次、さう、おぼし、大箱、といふ、おぼし、大を埋め、と



あるよりよ増田物らく人の田畠をうけ耕して主人  
 帝右衛門のたはまをとうりその久七はそをなむともな  
 くつと先それ後今に帝右衛門もとにつくくもく  
 まらまれありしひのちやふありせんともなふ  
 衆を目になりて精勤せし種もやそ無所とあは  
 かり物さびら松平肥後さよめくとうきへくに衆を  
 あつてくき美せり正徳三年の事とちん

貞節者ごら

ごらいた治政東尾改村乃百姓若右衛門の妻ちりり  
 先りれり父新右衛門年若く男子なく聲養子とら

より糸あつくと若右衛門とむりりそのうく  
 若右衛門の病乃病よるりく九卒を録り  
 近き病肌や少きて膿血ちりりて面新とら  
 とめくかりけきとらそのけらりりてい  
 といふ色ちりりあつて病とらけあや人  
 乃見夢身の苦痛とらとらとらとらとら  
 て朝夕の念事ふ林ふと病とらとらとら  
 ひくその好とらとけとらとらとらとら  
 さらやうに氣をあらうけららひるまらとら  
 とらをのらと福ひらるたあたら若右衛門の父の

方にゆくといふに弟獲らるるやうのお又、随分の  
 弟どよつららうの入主の事とらるる暑ふ日、急  
 病とらと持て涼しくくく先をたす日、衣服とわ  
 たらしくあつらふならくめ嬰児の事とらに  
 せむいぬ事との事とらと二親の事も孝とら  
 夫の命抱よとぬらふ事とあつたの事とら  
 らと田畠種ふ乃稼もたらふ人の丹襟もく  
 机よとらとめと或時二親をくめ事とら  
 しくおたらよとの事とら若右徳つらと他の病  
 らとぬらといふ事とらぬもあつた事とら

の事とらまはは事とらい事とら  
 離別せといふの事とらも事とら  
 といふ事とらぬらとけく事とら  
 事とらとら初少より主婦とらり今更  
 者よとらあつた事とらい事とら  
 くあるも天命とらい事とら  
 け未ら記事のある事とらもあつた事とら  
 程といふのも命抱せんとする事とら  
 といふ事とらせ妹よ聲とらて家とら  
 いたをの事とら夫婦別居とらい事とら

せしむるにけしきありたさむる松平肥後守より  
きしめしし元文三年米をあるくそのけい  
を獲りてせり

孝行者孫六之序

會は初南倉法村乃百姓孫六之席ハ二石六斗あり  
乃田島を振り父ハ孫六を請とく賣しし者あり  
しかハ孫六之席ハ十之歳より二十日の子あり賀券  
を云とく人ハ子とて親をやしあししと  
より貞実たるは生れつとてくも又とくそ  
らとてとて二親とて老衰してけしきあり

あつらふとてあるものうく衣服或る者親あり  
と調ととも事ありとてよきとていひよきとて親  
の事ハけぬへとて給金の多ありとて家  
らとて村お仕へとのけしていともくよりを云よもん  
を云く勤のいよあきとてつても子孫して親を  
いよとて事とていよけし親望或ハ神事とて休  
むとて日とていよ二親とて見つ親とてあり山島を  
けり親よもたていよ葉履とてあるハ馬の齒を  
つり又いよ縄大縄あしきの葛藤乃根をり  
らと竹の子とてとて二親の衣食の料よとて

ける七年前より領主のすくひとして方の代の合をそら  
 せ百姓よまひ入らくめし親老く年々くくま  
 しまをせとまのうら方をあつちふるまのあうあう  
 可しといまの二親の側におゆるしてその中より小巻ひぬる  
 事のをめいといふ方よあまのりまをせむとて月  
 への朝望よの垢離らりて領主と群れしたるに  
 かくて深みと席よか乃方うけせすすくひ乃金子ま  
 くとまうつかへし納よまの沙汰あらしとて  
 とたう耕作よ種をわくやうくじとてくつとて  
 は毎年秋のころめよの倉まのまらもち来り滞り

たうく納めその年より小早稲刈とてこの焼米とたう  
 けらう上へ初穂とてくつらうくめく是とてあふと  
 かりそめせしとてとつらう各まのりこへ指系りま  
 後白よと粉よとてとて二親よとめそのころ  
 月福日福念佛講とて月とて小巻よとめとて人  
 のつとてい來る事のあるよその講まよあこれる家  
 小父と連もとてとて齡とてとて初米もとてうあれ  
 小まうそれとて愈る外やあるとて家小とて智一講  
 申よとてあつらへしとて親よとつりて樂あつて  
 又ゆらけと推とつりむらひよゆとてとてあひゆ

且つ子へ出る小昔うらやましくそのゆくりを  
 養へばと申されしのはようかへるおひくもしてこの  
 もらうのぬくもる愛しく申おせいふて是れ松地  
 行ふとむろひよといふ親の二役よいつらふふいふ  
 もて親との用よそまを所所通く熾大やうけ  
 て親のうく福よ運るのち小我なともおをくんとそ  
 の身は益るといふはひしてそよけりて親族  
 ともこの村のうられんくよもむいふく年貫銭を  
 ろそよのせうりくこやそけ所をあつのおよむ  
 松平肥後守ようくく福よ兼とあへて寝美せ

且つ元文四年の事とていふこと

孝行者かね

う福の倉津郡系沢村の百姓佐藤吉う妻ちり男  
 二病多うして家固窮せしむとてうくしてよとて  
 ひよといふまう福よ是の年う実東へおて登根  
 昔ことと業うのちの村のうらり耕作とてけ  
 日傭錢をまうく男姑を養へり男はくせして姑の  
 跡もるも若くこり多病なりうおいそり  
 後よこやありくこりくのちの孝養の志る  
 しくそりいまることおとふ茶といのめるまに

申すにやうに晴ふより起かて茶をせん一姑の目さび  
 ると海らて湯をくるとまあらひはさうせらるして  
 のら茶をすくりにて或は茶を買ふ残のまてして  
 くらちちけさ今朝の茶もうはさうせらるものなり  
 くらおれさせん程なく濃く酒へくまらうとておれ  
 うらうらうものまらうとらひさうおれうのこまらうと  
 小落茶も濃くおもつうかとお真しとておらうとら  
 くら中るまは朝夕の食事も大根又ハ粟稗乃く  
 ひを茶の海へくくくくめくくめくくくくくくく  
 くらのめくく味くくもくくめくくくくくくくくく

海くもあへくくくめくくくくはあふその  
 男ハ粟稗のまてくくくくくくくくくくくくく  
 くら子のま那ハも父くくもに茶稗くく粟といと  
 くらと娘の同く茶を茶村乃某ハ嫁せくめめめ  
 くらと娘のつらく茶の肉は二人をまらうめくくく  
 くらと小終日の食物をくくの人をまらうめくくく  
 くらと人事を思ひくくくくくくくくくくくく  
 くらと海くくくくくくくくくくくくくくくく  
 くらとめくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くらとめくくくくくくくくくくくくくくくく

町の多きハき記程ハ姑のもよそのころよそひり  
 して肌もくそのあまきとあつたうらうら免れ  
 志つありして後よあつて記あつてゆる記衣をけけ  
 しまりの風とあき記あつてしその静よしあ  
 食事れあうけつと程くふいとあそありも  
 食もあつて守れハあつたあつたあつたあつた  
 とつものよも姑よあつたあつたあつたあつた  
 ありありとあつたあつたあつたあつたあつた  
 と辛辛のあつたあつたあつたあつたあつた  
 多れハ姑のよもあつたあつたあつたあつたあつた

ありたつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ろにあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ろりあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 かせ目くにあつたあつたあつたあつたあつた  
 ろよあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 て信業とあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 もたつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ともあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 吉諸ともあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ちてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

かまへとこれいふまよひて我くこの流るる  
 むろ老くもぬのいよるまよひて  
 とらよひぬまよひとらぬ神よ  
 と娘乃見とる所よとらぬ子乃事  
 つらとらぬ事よとらぬの  
 もに感くうまへとらぬて元文  
 け所よとらぬおとらぬ松平肥後  
 兼とあてとらぬ

忠孝者六助

六助は大沼郡横田村の組頭加津右衛門の譜代乃下

なり生れつゝ眞実よとてと代乃  
 中へ徳父と実母とふつとて孝  
 り祖父と依玄清とつひてと  
 もとてつゝか依玄清の奉若  
 その子右衛門も病多くと加津  
 とつとつ六助忘りぬと家  
 とつとつ者ハ飢渴よも及ぶと  
 とつとつとつとつとつとつと  
 加津右衛門見ずよの農家  
 よあつりの田畠とと代よも  
 全くと年貢よとら

人よりうたよおとあつせうの若郎右衛門去  
 年の秋うせりの一助よむひの海と代よつと  
 してんをうつて子ともむき善あくとるうりて  
 偏よ汝りかたり今より故の譜代乃外限を除記  
 といひたりとむむりんとひりるをむ譜代の  
 者よあむしにむむらるるにそれらう令れ  
 かふりてつてんてあむらふ録よの事れいつわ  
 にそのまふむらるるにむむらるる二十年とあ  
 佐云者よ入らう一助の父死して母いほ若  
 ろのそれの目一助頼川村乃百姓成去場といふ者

妻よじふんとりひをいせつに佐云場もれこの父  
 祖このつこのつとむむらるる飯兼とそむらるるの母  
 を嫁せり免そのつと後武去場は田あ年と鐘と  
 病よあつとむむらるるに日よも送る  
 のよそれの助せらるるに年の中らう休日あひ  
 の胡夕のつらまにの細くあつとむむらるる見元場  
 のつとむむらるるに夜終よの事むらるるのむと  
 り頼川村あつとむむらるるの路たむむらるる  
 安否とらひて送るのつとむむらるるけつ八年  
 前よつとむむらるる母もあつとむむらるるの海



有りておのれをいふとてお返し決せり作ま流らげあひ  
 申しとまらぬ大恩にうけし一人の家の断絶も及ん  
 事なきにいふことあり命にうけしとていふことあり  
 せんよそのお返しはあつとひいさすことありこれ  
 の親類にもとより村のうらの人々もその志乃奇特  
 なるに感しおのれをいふことありとていふことあり  
 せうこの事もおのれをいふことあり父方の祖父あ  
 り同じ船乗尾後村乃名を治左衛門後えして十二  
 歳のときよのや谷の夜をいふことありこれの作ま流ら  
 げあひの事ありとていふことあり命にうけしとていふことあり

成長と申すはつとてお返し決せり作ま流らげあひ  
 申しとまらぬ大恩にうけし一人の家の断絶も及ん  
 事なきにいふことあり命にうけしとていふことあり  
 せんよそのお返しはあつとひいさすことありこれ  
 の親類にもとより村のうらの人々もその志乃奇特  
 なるに感しおのれをいふことありとていふことあり  
 せうこの事もおのれをいふことあり父方の祖父あ  
 り同じ船乗尾後村乃名を治左衛門後えして十二  
 歳のときよのや谷の夜をいふことありこれの作ま流ら  
 げあひの事ありとていふことあり命にうけしとていふことあり

大のいんしんはるしむのふゆの海老よるさるしゆのふゆにえ  
 金ころり年としんくせせころひまひいころのうらそに  
 ころくせむろしんかころひまのよるはうりふ年米い  
 ころものころとけくし先祖ころの指の二十お  
 石餘乃ふ限よそころたりころころ免希希島乃石  
 子四朝まし今いしゆも離教しして只作ま清一人と  
 かんまころふく忠勅しころいかりころりり連の指の  
 乃田地もあまの希希島つころころひまのく作ま清と  
 別家よころと申免希希子とも枝助せころそ希希島ハ  
 田後希の正月張胸の病よふし回し免希の六月早

九菜よして終りぬれしも農業いそころいしし耕  
 作の事にいとあふけしと田舎の醫者いそまのいそ  
 町乃醫者ともいし来りて力のころり療治をころ  
 あらハ耕佛よ不復といのり夜食のあうけ湯薬と  
 ころじりもも人のまよころりし中く見ゆら  
 本あといんえころりころいけしころ希希島つころ  
 ころのありしに希希島終りよのそとて親族を  
 ころいつらひ穢身あころんのころ作ま清して希希島  
 ころ希希島ころけしあ家乃ありころひ乃事乃ま  
 ころころの事いしころりころりころりころり

下とつひ乃みきし一程よ作ま湯ハ市志為のあり  
 一りのりろと市志為のよ教へるる公用ハりよ及ハ  
 是村乃ら此年貢との滞る事ありおと先とせ  
 多り作ま湯生起しつとととらりてま入あこと  
 村人への應對よつとと深く臨みよと事いと  
 けりもあく市志を思ひ手治を教養術を授きて人  
 のこととけとらりつそれいとけりこらり作ま湯の年  
 ねハぬりなをそ惜とけつとれよ市志為つらせふし時  
 六十日ハ程ハるありとととと月代をそらと  
 ねとふ墓治して妻の事を勤へるとけしを

ありありおさじら松平肥後守よりとつとに茶とあ  
 つく貴せしハ延享四年の事ありとあり

孝行者久七

大沼郡西谷村の百姓久七ハ石と斗あり此田畠を  
 耕し人らねり律義ありて父母よつとと孝り  
 ありとと父を十志為といつともらり家ありとと  
 ありとと福ありとと母の質券もく人のもこと  
 つととれは家よハ父子のともとと艱難よ世をり  
 ありとと七十六歳乃美の法より回し村乃名を治は  
 ありとと二年前乃年ととと十七歳の時ハ回し

村乃助左衛門といふものも借券もく合とあふ  
 をうりその身代乃合のく母の身代あつてい  
 してこそれ後も奉納とつる度とらよ後合とつる  
 さゆれつゝの雇作ともしるの事のまじり  
 るとらしてまゝ二親乃料とらつてつて後  
 乃時より回し取川口村の忠義流とつる  
 といふも若村へつり若七といふもの  
 之分乃合つりし今よそれおよそ  
 かつても篤実よ頼それい  
 とらつて陳時乃事どもらけつる  
 七もつらつりい

まん一奉の賞とらつてめ出後  
 主のことつらうけぬの  
 族をとりめ組合乃  
 志つてと借券よも  
 ぶらつて事つる  
 女いじつる  
 あつてい  
 風のい  
 ともつらつる  
 事かさ

木のらむとらふい或は家乃や梅樹ぞらうしつらひ  
そ乃日れ食物又ハ新水やうの物あてとくのしきく  
あつ甲の体目よよどの田畠乃耕作とらうらと  
うゆる木の料ハまゝ父とや一あふたさけとそあし  
けつふにむくのしつらうらつらた葉物乃熟し  
しつらふとらふくつらつらつらつらつらつらつら  
あつて父よとらふあこらつらつらつらつらつら  
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらの利をぬく父よとらうしつらつらつらつら  
しつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
ひて挿へつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
くぬれの志とらふもむくあつらつらつらつらつらつら  
まじやうせつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
組合乃者もとらふつらつらつらつらつらつらつらつら  
とらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
とらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
とらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
とらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら



慈心ありてその心より誠とましく世後の世にたの  
 らぬ母の福ありてその心より世を公抱にいらぬ  
 くとまことその心より業とまかりてゆく物籠と  
 取り共小細文とてその心よりけりせざるはるる  
 賊とて衣服とてなり代りて潔その目と送り  
 し程よ村人もその志に感しけりてその心より  
 りの物贈りて心を流るるの心よりけりてその  
 男乃食事ハ母のありて湯と和してその心より  
 事と母よりその心よりゆとせしめたりてその  
 ありの妻とて遠く是婦のありてその心より

の事とてその心より母の心よりその事とてや  
 ありの妻とてその心よりその心よりその心より  
 つひその心より妻にその心よりその心より  
 際じその心よりその心よりその心より親里  
 けりて其の心よりその心よりその心より  
 ありの離ありてその心よりその心より  
 入くその心より其の心よりその心より  
 ありの心よりその心よりその心より  
 ありの心よりその心よりその心より  
 ありの心よりその心よりその心より  
 ありの心よりその心よりその心より

此のころの出来事とあるところを考へて、此地をめぐりつゝのあり  
しむる松平肥後守とある

貞名者松平忠重

大沼郡の町村の百姓松平忠重の妻に生れつゝ貞名とい  
てまゝのうちにまゝといふそのまゝにふらふ七十六歳乃老  
の身ありに十二年このころに中風乃病よふと云ふ所の  
忠名のまゝにあらはして初めもつゝといふところのまゝにま  
勤といふところのまゝといふところのまゝの療養費  
多くと云ふところのまゝといふところのまゝに因窮して朝夕のあり  
けもといふところのまゝといふところのまゝに長病よふと

た建てる事なれどもいふ所の罵名にけつこの妻にいふ所のま  
つゝといふところのまゝといふところのまゝに二使の  
まゝに居いふ所もまゝといふ所のまゝに目みかしてまゝに  
まゝにいふ所をまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにまゝにま  
方にまゝにまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
乃あつゝまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにま  
つゝといふ所のまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにまゝにま  
何れまゝといふ所のまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにま  
ころまゝといふ所のまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにま  
まゝにまゝといふ所のまゝといふ所のまゝにまゝにまゝにま

の及ぶところよあらうそりきりある村を志す者ありき  
 くのと志するふあそり近江人くれ家乃そとも  
 かり何ひと志すたもるたしふ妻ととあつらう  
 といふくし氣多よく杖とらうやうくたに遊むこの  
 妻におゆくれ方へをい出ゆとていふては弟履を脱  
 ぎてしとていふていふていふていふていふていふ  
 くむけくそあよけるかの人くも妻の志よ感へて  
 志すところ折へて引く志す妻もいふていふ  
 海くにいひていふていふていふていふていふ  
 来といふよ松平とあつらうのあつらうむら松平肥後吉よ

のくところへ出されは兼とあつらうその貞義と徳義  
 せり

忠孝者孫助

忠孝者志は

孫助夫婦は久沼郡吉中村の百姓名吉なり初るり  
 志不の同く那川に村の名志す所の娘めく孫助の家  
 といふり十二年あそあつに名孫助の父と孫志す  
 といふていふていふていふていふていふていふ  
 これより十一年前よ夫婦は人よとて甲親を志す  
 といふていふていふていふていふていふていふ

それより母の質券もてのの志吉のむらりん〜と  
う志吉もかまらぬあつら〜と母のしんぶん〜  
云々年志つとめ乃のむらもむらそれらり〜とらぬ  
月あ〜と暇と給ひ〜とあふその意におつせ〜とあ〜る  
ま子うみあむ程う〜と立たれい〜と志吉のむら  
あつら〜と父の孫志吉のこ〜とむらりん八年あやうせ  
ふ〜と母のあり〜と程の夫婦ともは孝ん深〜中に  
も志不孝志ま〜とむられ〜と親乃志進乃人よ〜とり記  
〜と程の母の他村中ともその行ひと業〜とあ  
〜とわ〜と母をう〜と家よる〜と六年け〜と申風乃

義に母〜と是も母もあ〜と父の命もあやう〜  
〜と父の志の志死〜と母抱のりもあ〜と母  
あけ〜と母れ着程よるむ〜と母の志進乃  
後八月日に〜と〜と〜と母よる〜と志吉の  
あゆもあ〜と程の夫婦のあ〜と志吉の  
母のしんぶん〜と母のしんぶん〜と志吉の  
〜と母のしんぶん〜と母のしんぶん〜と志吉の  
醫業よ〜とめけり志吉の志進乃村の申に  
〜と田畠も程よ〜と農業よりの人ら〜と志吉の  
物あよも及び〜と志吉の志進乃のしんぶん〜と

その中のいふ人といふは母をくらひ母のもくらひは来り月  
 にあゆむといふ林よりのつづき菊とつづきあはれといふ金小敷  
 それゆへにいとあはれなうけもといふりあはれしく戸障  
 子もあつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 じつらあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ  
 子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 成程しなうし乃妻あはれひてあはれと乃妻あはれひてあ  
 はれひてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつて  
 つづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子  
 一母のあはれをくらひてあはれとつづきあはれ子あつてつづき

といふ人といふは母をくらひ母のもくらひは来り月  
 つづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 のあつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 そのあつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 つづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき  
 あつてつづきあはれ子あつてつづきあはれ子あつてつづき

して水五月乃ほあひの二町ありてありける清水  
 とていし月ありて夜よそれともるまじきとてめきり  
 もめりししとて食物とゆる事ありて必姑れ出  
 産とてまけける者ともるまじの親族の文も  
 いとて村らの人々にもゆめやうるまじき  
 誠よとていともるまじありてとてい出され  
 の地とありてのおさむら松平肥後より夫婦ふ  
 男乃代の金とありてその男をあるまじき  
 こと主人乃名吉よの孫助夫婦乃孝養をとけさ  
 せし事乃奇特ありてその事ありて

その志を盡し若せしめとて是明和五年とて  
 え

孝行者名古郎

若古郎は倉津郡播磨村の百姓のまこと名三平あり  
 且れ田畠ともてり父を勤之樂といひて七十歳乃  
 ころより十一歳若小眼とてやとて年十二後醫療  
 をまじけしとてその志もあつて今日目しあよ  
 せらるる家乃うられ新歩もるまじきとてそれ  
 うらふよと十九歳乃母も十八歳とてこの病多  
 割ももるまじきとて親ともいへば若古郎の妻

をのこ待し程よ年月よ勤しこらぬゆへこれ  
 は田地乃ちうちとこちとと賃にをたのりその分抱の  
 費とそまけつゆのありけはいよたひもせん  
 ありけつゆを那むれつこ篤実ゆつてこま  
 公の法をまへしこらぬ質地乃ちありと耕し  
 ろへとも貧乏の滞る事なく村のうられ扱をり  
 親族中この里人乃ち定と贖し先祖乃ちありよ  
 誠とこら二親の福よゆして年月意をえり  
 親父の飲食もの海川こ中ありとこれ好と  
 ころぬぬいり有様よくむらぬふ事ありと

とのこ達着らうとぬめやこひまこあこ  
 ねも免つここ物なこれの免角して個と  
 免しこ二親よいことも志とせとそらそれん  
 益すんこ事のこらけける家居乃ちこひ  
 こもあゆとこにこねん風とまこ  
 時々のこやゆりにこけは母れこ案  
 こらひらる隣ちこ負ひ初こそ村人のこ  
 小目こも入よのこ耕したとせと社に  
 進もひらの父の二親乃ち分抱ありとこ  
 ここ力とありせとそ其費とつりの出妻と

弟らうしめし、母も中し、母の死に、お初め、お終い、  
 胃始よ、まめ、やう、あつ、と、と、と、母、去、く、年、と、食、乃、と  
 父も、去、年、う、せ、り、か、い、その、毒、宗、乃、中、う  
 け、う、ら、し、と、う、よ、あ、い、給、夕、乃、靈、膳、迄、進、み、あ、い、こ、う  
 と、う、め、時、の、菓、物、も、必、あ、う、こ、う、ら、と、そ、る、あ、あ、い、と、  
 申、う、し、と、事、あ、う、く、出、入、と、ら、と、と、い、ふ、と、乃、事、も、あ、い  
 つ、ふ、と、お、法、を、誠、よ、い、げ、う、よ、う、う、う、う、と、く、な、進、と、  
 安、永、二、年、と、い、ふ、に、業、と、ら、せ、く、と、その、孝、行、を、責、  
 せ、い、此、地、を、あ、つ、り、た、と、し、ら、松、平、肥、後、と、と、そ、地  
 とい、え、し、

貞節者い孫

い孫、い、天、治、郡、尾、改、窪、村、の、百、姓、寅、之、助、う、つ、ま、あ、り、胃  
 市、友、善、と、く、と、う、此、よ、中、風、乃、痛、よ、め、あ、り、と、  
 も、あ、い、う、ら、し、に、寅、之、助、も、七、年、こ、の、こ、癩、の、病、に  
 あ、や、と、い、け、あ、う、子、の、二、人、あ、く、あ、ま、い、家、乃、百、五、人  
 一、申、に、事、つ、と、し、ら、と、此、い、孫、を、う、ら、う、ら、し、と、進  
 と、八、石、あ、あ、り、此、田、地、を、耕、し、年、の、貧、滞、を、事、な  
 く、あ、う、め、胃、主、と、な、抱、し、業、用、怠、ら、し、二、人、の、好、め  
 る、食、物、ハ、無、量、と、う、こ、は、歳、と、い、い、と、あ、く、福、と、う、  
 先、又、始、と、し、と、物、を、重、り、せ、ら、れ、い、ふ、あ、い、う、と、く、窮、を

ころ城下の市に背負ひ出くそのいふ志ありて  
 髪ゆひ月代ころ車中くもえよからぬ程よん  
 を用ゐぬある時寅之助い孫よむひころちやまひよて  
 愈んころこつ是東ぶそれ何ちんありとも兼家一  
 してふともやえんしてふともはひまれ進んころに  
 小登と志つころい汝よいまといむらんけ家正つころ  
 めんちんころこえけるにころい支母乃ころいをな  
 ころいころころこせよ海じともふ人の病者と初よみ  
 ともとこころこころいひころ乃ころとさめんと思  
 ひもころころいとも家子れあひころいぞ樂まんかこ

ころいころいころい孝貞とそころい舅市左衛門いよくま  
 の妻ころいころいころい進善信忠ところいころいころいころい  
 ころいころいころいころいけおとあつころいあさむら松平  
 肥後吉よとこえけもい兼とあころいころい懐美せつい安永  
 二年九月とるん

貞長者市川

ま川の大臣那禮危村乃百姓基十郎ころ妻あり基十郎  
 の父祖の代より貧民ある年月不幸乃ころころつ  
 ころこ私の相ひぬ多うのころと親族も又貧しく  
 してたころころものもあつころいころいころい合津

那田鶴村の小左衛門も一人、質券もしてなほ出へ  
 是より四十七年、さうな事ありと、或時基十郎中、つよ  
 りひきつり、くゝ負へ、さうよ、さうのり、我、才、と、人、よ、由、こ、ね  
 母、子、う、に、田、元、と、ま、う、せ、て、い、親、類、乃、い、ら、る、と、い、つ、を、限  
 り、と、い、つ、り、と、る、へ、さ、れ、い、ま、婦、れ、縁、と、ら、て、い、ら、る、と、い、つ、を、限  
 さ、と、い、ま、れ、い、ら、る、無、嫁、と、い、ひ、ま、い、へ、い、ら、る、と、い、つ、度  
 親、里、へ、い、ら、る、げ、と、い、た、と、い、ま、若、と、い、ら、る、と、い、つ、度  
 て、ま、よ、い、ら、る、ま、ん、事、い、女、乃、名、に、あ、ら、る、と、い、ら、る、と、い、つ、度  
 大、芦、村、乃、年、左、衛、門、も、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、

此も二分の金銭をとり出し、妻乃、家、よ、ま、い、ら、る、の、首、切、を  
 の、お、れ、お、ひ、め、を、つ、つ、の、ひ、き、つ、り、と、い、つ、名、九、斗、あ、ら、る、乃、田  
 島、と、も、ま、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 い、年、左、衛、門、の、金、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 つ、つ、あ、も、お、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 小、左、衛、門、の、方、を、つ、つ、の、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、  
 の、虚、猫、お、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、と、い、つ、度、い、ら、る、

とんまにえ何んまでまの身はれ全と55のく  
ら毛やもやのこま年やういあそくけらくく  
ももまのまをせしうら日用乃錢をと送り男  
始せよあしゝ種ハ孝養をさうし種にまこ  
あつてくゝ種うくうけらにうくこはを  
まもりて行ひ正しけし海へ出ろふあせ兼  
あこく貞美乃養をさうい地をあらうりあ  
じろ松平肥後さうのとあん時の天明と奉のさ  
奇特者表在也  
會津郡針生村の百姓法右衛門生連つら篤実の

して石八斗あやうれ田畠をもとり七奉と此の凶作こ  
のこ肥後さうり志とく救いこまけられとのま  
組あふ五人申の二人はあまらひありうくして  
いっらうららせあまらうり表右衛門もまうか  
あしとあ乃と人の物こまきうけいもも田宅  
と金うしおひめをすくのひとうけいも百姓よま  
いるもあらんしく貢物乃米をとたこめ備材  
ともうまう出しそ乃身ハ物く事もまう  
しあの人を軽ん奉貢郡役ふかあまらうあは  
くまのまをさうとまう一並他にけれハ袋り

いせくそりにいけ田畠或いふりせさふりよおふ  
 時ハ娘とてまのまらしくめ夫大をいせくむること  
 とこころありと又三人の申の親族ある者ハ父祖の  
 位牌とてり家よりつとていせくあまのいせく  
 奈とまうけしも又孫んらるるの二親世よをい  
 けの孝義乃志深く人くこれけけいこのもたの  
 ありとてこの取紙ありなりなむむ松本肥後ちよ  
 くととていせくこの取紙ありとて賞せくと寛政  
 元年此事とふん

貞義者らよ

ちよの倉津郡田代村の谷三忠三清らつあり生れは  
 とこ奈和よりて中のい海光やありとてまのい中め年前  
 らり熱瘧をうせし人乃まのともありとてけいせくと  
 免とてその子清を養ふありとてまの療養のせせ  
 こつと七八年前このいせくとていせくと家乃内のお  
 由ともあまのいせくありとていせくと守りれ  
 こつとこころありとていせくとこの田代村のいあ  
 ひよとていせくとていせくと乃事自坐ちりて醫者と  
 てもあまのいせくとていせくとと醫業をいせくと  
 の義ありとていせくととていせくとぬ神佛のも不復といの

中身の食事に病の障りあるは種菜中の一丁急  
 乃しつひをくじつとして氣絶するありあやうくも  
 ちんけいなるは物憎みとしてあくさぬく先  
 二便のとりあはれも年月入の子どろは久しく  
 病の婦してそまもつてあんなく業をも之をハ  
 らけて外おの下にこそぬきつものあらはと舅姑も  
 老衰しく病えよとるは朝夕食事もうく  
 正里より事たるは孫のつてあつてあつてこの力  
 乃及小粒のふれどくせうなるは食事も全く  
 され老の身のもとしてまこととらんともくそ乃

うくいぬるやうくひも程の夜さうけあつてあつて  
 りりてその難難とつてつてつてその子の清右衛門  
 婦もちやうあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 煙草の葉とのつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 と父とやあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 清く初く譜代の男女も年月あつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 ねとちよあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

松平肥後より寛政三年といふの事とありて  
そ乃貞義を褒めたり

忠義者六郎玄清

六郎玄清は會津郡倉谷村乃産あり同く郡川橋組  
の星金吾といへるは同屋敷のありては主人の役  
を子又觸継といふ事ともいへる事志を  
ては家おろふ事初は母六郎玄清の産右義といへる事  
只二人といふ中よも六郎玄清は田畠の事なりり  
めく家の事ともいふ事とて耕作乃業に  
あん在りてこの事おもふ事とて酒を好

しこの事とて金吾といふ事とて  
あつては満もはよふ事とて去年九月乃  
夜病乃病とてあつては金吾の家こそりてそ乃  
病よゆけり病こそやけ病乃人よりつりやとて  
とていふ事とていふ事とて親跡の事とていふ事  
とていふ事とて村里のありひあるよ六郎玄清といふ事  
もいふ事とてそれ抱ふ事とて同く郡田橋村  
小醫者老のありては初夕とてあつては抱乃といふ事  
その薬とておめ村の中は事おもふも五人といふ事  
つていふ事とていふ事とて親とては族の事傳へその病よ

うつりそゆん事やうきくくさういし里よまう  
 事とつひをこせしに年月日人のあさけゆる  
 あり今更ころる難難とえ替んとたふすいつの  
 ありとも我んをさうはも一回し福よ流じと  
 もいつしもれぬ抱りうらふうくそく命おしくとも  
 ぶんと醫茶ととと免神佛よちうひふくしてそふか  
 復をいのりける復にころれら西行乃ま道よつてこ  
 えて人よつふる者の鏡とあり寛政三年比をわ  
 つうおさむる松平肥後おさむし一六茶とあふて替り  
 孝義録卷之十四

